

熊本県立第二高等学校 平成24年度学校評価表

1 学校教育目標
本校の三綱領「自主積極・謙恥自尊・礼節協調」の具現化に努め、知・徳・体の調和のとれた全人教育を推進する。また、これまでの教育方針に基づき、教職員が一体となって保護者や地域との連携のもと、県民の期待に応え、活力がみなぎる存在感のある学校づくりをめざす。

2 本年度の重点目標
(1) 生徒・保護者の期待に応える進路目標の達成 (2) 三学科(普通科・理数科・美術科)の充実と特色ある学校づくり (3) 人権尊重と三綱領の精神を体現する生徒の育成と個性の伸張 (4) 職員の資質及び組織力の向上と学校の活性化

3 自己評価総括表							
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題	
大項目	小項目						
学校経営	特色ある学校づくり	自ら学ぶ態度の育成	「早朝学習」を通して、自学自習の習慣を定着させる。	進路指導部が企画し、各学年・教科と連携し運営する。個の学力に応じた課題の準備や指導を行う。	A	概ね良好である。趣旨の徹底や、生徒一人一人の取り組み方、各教科の課題の内容、時間の概念が希薄な生徒に対する指導などさらに改善に努め、より質の高い早朝学習にしたい。	
		読書習慣の定着	年間を通して「朝読書」を継続し、生徒の読書習慣定着率90%以上を目指す。	朝読書については、生徒と一緒に全職員も取り組むようにする。担任・学年・関係部署と連携し、読書の重要性を啓発し、定着化への指導を徹底する。	B	朝読書の取組は、年間通じてほぼ継続できたが、7月時点で約85%以上の生徒がきちんと取り組んでいたものが、1月時点では80%近くに下がっていた。この原因を十分に考察し、次年度に向けて改めて取組方法等を検討していきたい。	
		SSHの推進	県内大学を中心に研修や体験授業、外国人研究者による講義等を実施する。また、SSHの研究成果の普及を図る。	SSH担当職員が中心となって企画し、全職員で取り組む。また、県内の高校や近隣の小中学校及び一般市民に対して成果を普及させる取組を行う。	B	大学での研修や体験授業、課題研究、科学的な能力開発ゼミ等、計画通り実施することができたが、評価方法の確立に課題が残った。成果普及に関しては、小学校対象の新規事業を実施するなどある程度成果があった。	
		学校生活・学校行事の充実度	生徒会・部活動など生徒が主体的な活動ができるようにする。	生徒議会を活性化させ、運動会、文化祭をはじめとする創立50周年行事に対して広く生徒の意見を取り入れる。	A	創立50周年に併せて、「二高弁当日」や「キャンドルナイト」など新たな企画を実施することができた。また、運動会や文化祭にあたっては議会や委員会を活用し、生徒の意見を取り入れた活動を展開した。	
	開かれた学校づくり	情報の公開・発信	学校HPや二高会報で学校の現状や案内等を適切に発信し、アンケートでの評価を上げる。	学校HPの記事更新頻度を上げる。二高会報の記事編集において、広報委員会と係職員の連携強化を図る。	B	学校HPをリニューアルした昨年度に比べ更新頻度は低下した。各種ページの入口が他校に比べ多いので、次年度に向けてレイアウトの変更を検討している。PTA広報委員会との連携は円滑に推移し、記事の充実を図ることができた。	
		保護者・地域等との連携	PTA・学校評議員・同窓会等と連携し、協力体制を構築し、アンケートでの評価を上げる。	学年および学級通信が保護者に届くように指導する。東区役所と連携し、二高会報の地域配付を検討する。	B	PTAおよび同窓会との協力体制については、これまでの礎をもとに50周年記念行事を通じて、さらに発展することができた。一方で、地域との連携を具現化するために、東区役所との行事(生徒会)を通じた相互交流はできたが、二高会報の地域配付までには至らなかった。	
	安全管理の取組	健康教育の推進	感染症や熱中症に関する予防的対応の充実を図る。第4期(高校3年相当)麻疹予防接種の実施勧告100%を目指す。	保健だよりを年4回以上発行し、情報の提供を行う。保護者会、学年会で調査を行い、未接種者に対し個別指導を行う。	A	季節に応じた情報、機会を捉えての情報発信ができた。麻疹予防接種は目標である100%には届いていないが早期からの勧奨の結果98%(1月22日現在)であり最後まで勧奨していく。	
		施設設備の保守・点検	月1回施設設備を点検し、危険箇所を早期に発見し、対応する。	事務部が立案し、全職員で点検する。学校予算で対応できない案件は、主管課と協議して対処する。	B	美術科棟トイレ改修工事、プール改修工事、地学教室床改修工事、書道教室天井および床改修工事、被服室天井改修工事、職員駐車場階段および駐車場整備、渡廊下耐震改修工事、ホッケーフェンス改修工事、ハト防止ネット工事、受電室改修工事等営繕担当者・先生方の力強い協力を得てチーム力でのりきることができた。次年度はさらに野球場のネット改修に臨みたい。	
	学力向上	学習習慣	宅習(予習・復習)の習慣化	宅習時間調査を1・2年は年3回、3年は年1回実施し、家庭学習の指導に活かす。	教務部で立案し、各学年で取り組む。調査結果を踏まえて教科・学年で検討する。担任は面談を行い、個に応じた指導を行う。	B	学習時間を増やすためだけに実施するのではなく、量と質等の内容の精選を図り、考査への意識付けを目指すという点を再確認したい。また、実施方法や内容についても改善を図る。
			授業評価の活用	生徒による授業評価を年2回行い、授業改善に繋げる。	教務部が立案し、7月と12月に同一クラスで実施する。結果を踏まえ、教科会等で研修を行う。	B	実施時期の見直しと実施方法の検討を行う。実施時期は1回目は6月初旬から中旬にかけて、2回目は11月初旬に変更する予定である。
授業力の向上		研究授業の実施	教科ごとに、年2回行う。	教務部で早めに授業担当者を調査し、実施を促す。実施状況を調査し、研究紀要に収録する。	B	学校行事のために研究授業を実施しなかったが、相互研鑽授業をとって授業の向上を図ることができた。研究授業は、新年度にあらかじめ割り振ることが望ましい。	

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:やや不十分 D:不十分

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
進路指導	進路目標の実現	進路実現に繋がるキャリア教育の展開	学年ごとに進路講演会やキャリアガイダンス、クラス別進路説明会を実施する。	進路指導部が立案し、学年で実施する。ガイダンスは1年生は職業別、2年生は学問系統別に講師を招聘し実施する。	A	時期、内容共に適切であり、内容も充実したものとなった。ただ、生徒の進路希望や職業観は多様化しており、よりきめ細かな講師の選定や職業の広がり意識したものとしていきたい。
		個に応じた進路指導の推進	全生徒を対象に三者面談を実施する。また、課外や模擬試験等を計画的に実施する。	三者面談は学年が中心となって計画する。また、模擬試験や課外については事前指導や分析検証を定期的に行い、より効果的なものになるよう努める。	A	担任、学年を中心に個を大切にしたいきめ細かな指導が行われた。個人面談については継続的に実施したい。模擬試験については事前、事後指導をより充実させたい。
	進路情報の発信	進路に関する適切な情報の提供	進路だよりを年3回、進路のてびきを年1回発行する。	進路指導部が各学年の状況等に合わせ発行する。また、職員研修を行い、日常の指導や三者面談・家庭訪問などで活用する。	B	情報提供は計画的に行うことができたが、活用という点において今一步である。学年会などを利用した、活用の仕方の研修などを充実させていきたい。
生徒指導	交通指導の取組	交通指導の強化と交通マナーの向上	事故件数・違反件数の昨年度比での減少と二重ロック90%以上の施行率を目指す。	生徒指導部を中心に、バイク実技講習会や交通安全教室、生徒会交通委員による駐輪場での指導、PTAと連携した街頭での交通指導を実施する。	B	交通法規違反の件数が、昨年比で激減した。自転車の二重ロックの90%以上の実施率は11月以降達成した。一方、交通安全教室や街頭指導等を通じて交通ルールやマナーの指導は行ってきたが、まだ改善の余地がある。
	あいさつの取組	あいさつ励行	朝のあいさつ運動を実施する。	生徒会が企画し、生徒が自主的に笑顔で声を出してあいさつするような啓発を行う。	B	生徒会の正副会長立候補者によるあいさつ運動や交通委員の二重ロック啓発運動に併せて行った。「大きな声で、笑顔で、相手の目を見てあいさつする」を目標に指導した。ただし、生徒会の業務の負担を考え、予定の回数はできなかった。
	服装指導の取組	生徒の服装における自己管理能力の向上	服装指導の徹底による違反者減少と式典時の服装の徹底を目指す。また、長袖夏服を導入する。	服装指導での客観的基準を設け、式典における服装の基準を明確にする。長袖夏服については、生徒指導部で導入を検討する。	A	生徒手帳に書いてある「服装規定」の表現を具体的に直し、教職員一人一人が客観的に服装指導ができるよう改めた。長袖夏服について検討を行ったが、生徒のニーズが高くないことから導入を見送った。
人権教育の推進	人権・道徳教育の取組	教職員・生徒の人権意識の向上	LHRを活用して、人権教育及びスクールアイデンティティにつながる道徳教育を行う。	道徳・人権教育係が立案し、全職員が共通理解した上で、各学年で実施する。	A	計画通り実施することができた。道徳教育に関して、今後も活用できるプログラムをつくることができた。
	特別支援教育活動の推進	不登校傾向の生徒をはじめとした生徒への支援活動	長期休暇中の補講を年3回実施し、個に応じた指導を行う。登校しぶりの生徒に対する支援体制を充実させるとともに予防的対策を推進する。	補講は教務部が立案し、夏季・冬季休業中と学年末に行い、生徒の基礎学力を養う。また、教育相談部で、LHR等の時間を利用した仲間作りを推進する。	B	補講については計画通り実施できた。LHR等を利用したアンケート調査を2回、仲間作り活動を1回実施できた。ある程度の評価を頂いており、来年度は更にLHR利用回数を増やさせて頂けたらと考えている。
理数科・美術科の充実	理数科の充実	科学的に探究する能力と創造力の育成	課題研究、課題研究発表会、実験・観察、大学での体験授業や講演会などの充実を図る。	SSH関連事業を活用しながら、理科・数学の担当者が中心となって内容を精選し、実施する。	B	各学校の発表も年々充実してきており、課題研究発表会は充実していた。審査の方法については検討が必要である。理数科協議会の活動について、一定の整理をつけた。SSH関連事業に生徒たちは積極的に参加できた。
	美術科の充実	実技力の向上と広報活動の充実	技能習得のための学習会、校内コンクール等を(年3回以上)実施する。「美術科だより」を市内中学校や保護者に配付(年5回)、併せてHPの充実(隔週更新)を図る	学習会、コンクール、「美術科だより」の作成は美術科職員で企画・立案し、実施する。中学校等への配付やHPについては、各担当と連携して行う。	A	デッサンに特化した校内コンクールを今年度は4回実施した。「美術科案内パンフレット」を持参し、直接市内の中学校を訪問できた。実技力向上と広報の充実は、次年度も引き続き継続する必要がある。

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:やや不十分 D:不十分

4 学校関係者評価
 学校関係者評価委員から次のような質問や意見があり、協議・意見交換を行った。○客観的なデータを揃えるのが難しい評価項目もある中で、学校評価アンケートとリンクさせながら適切な自己評価ができている。○中学校の視点から、第二高校は落ち着いて「素晴らしい学校」という高い評価をしている。○学校評価アンケートにおいて、「早朝学習」への取組について、保護者は(生徒が)まじめに取り組んでいると、高い評価をしている。これは、保護者が早く登校させているから自信を持っての評価であろう。一方、生徒自身の評価が高くないのは、早朝学習時の取組が不十分であると思っているのではないかと。○相互研鑽授業の達成率が昨年比で上昇している。工夫されたのではないかと。○交通指導(挨拶運動)について、今年度は1回だけPTA役員も参加したが、要望があれば今後も積極的に関わってほしい。○家族ぐるみ・地域ぐるみで交通安全教育に関わっていただくとありがたい。自転車二重ロックの実施率を上げることは、防犯上良い環境づくりに繋がる。○SSH講演会に地元中学生を招待いただき感謝している。小学生を招いての体験学習講座も好評で継続をお願いしたい。○生徒会役員とPTA役員が懇談できる場面ができればと学校行事等で更なる活性化への取組が具現化できるのではないかと。

5 総合評価
 本年度の重点目標である、生徒・保護者の期待に応える進路目標の達成、三学科の充実と特色ある学校づくり、人権尊重と三綱領の精神を体現する生徒の育成と個性の伸張、職員の資質及び組織力の向上と学校の活性化について、自己評価、学校関係者評価から、「十分達成」、「概ね達成」という評価とした。学校経営、学力向上、進路指導、生徒指導、人権教育の推進、理数科・美術科の充実など、学校経営全般にわたって各取組がうまくかみあい、取組の成果が出ている。成果とともに課題も出ており、創立50周年を経て、今後とも、教職員が一体となり、保護者や地域と連携し、活力がみなぎる存在感のある学校づくりをめざしていく。

6 次年度への課題・改善方策
 進路指導体制はほぼ確立されているので、今後は、難関大への合格者を増やすために、授業力の向上に向け、授業評価、研究授業、相互研鑽授業等の活用方法について担当部署で最優先に検討し、改善を図る。生徒の宅習の習慣化に向け、面談を実施し、個に応じた学習指導を継続的に行う。交通安全教育については、関係機関との連携による安全教室の開催などで、常時生徒一人一人に喚起できる指導を機会あることに行う。SSHでは、県内の高校の理数教育の牽引役として、かつ近隣の小中学校への成果の普及を目指し、さらに研究を高める方向で進めていく。美術科についても、今年度の取組を点検し、広報活動にも努め、県下唯一の美術科としての役割を十分に果たす。本校三綱領の具現化に努め、知・徳・体の調和のとれた全人教育の推進に向け、学習活動、特別活動を総体的に検証し、改善を図っていく。